

週刊 タバコの正体

先週、卒業式が行われ3年生を送り出しました。1年は長いようですが、アッと言う間に経ってしまいます。去年の今頃、一年生の諸君はまだ中学校に登校していて、和工の入学試験に向けて最後の準備をしていた事を思い起こせば、本当に1年は短く感じます。

そんな1年前の3月11日、あの東日本大震災が発生しました。その直後、被災地である宮城県気仙沼市立階上(はしかみ)中学校の避難場所となっていた体育館で行われた卒業式で卒業生代表が読み上げた答辞を紹介します。

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、私たちのために卒業式を挙行していただきありがとうございます。

ちょうど、十日前の三月十二日。

春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を五十七名揃って巣立つはずでした。

前日の十一日。

一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名づけられる天変地異が起こるとも知らずに……。

(中略)

しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

時計の針は 十四時四十六分を指したままです。でも、時は確実に流れています。

(中略)

生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

(中略)

先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩んでいく姿を見守っててください。必ず、よき社会人になります。私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

大震災から、まる一年を迎えるにあたり、タバコには関係ありませんが、追悼と復興の祈りを込めて「“命”や“人生”や“日々の生活”を大切にして、天が与えた試練に立ち向かうべし」という君達と同年の少年の言葉を胸にきざみ、これからも被災地の事を忘れず次の一年も共にがんばりましょう。